

# 第2章 環境行政と宇都宮市を 取り巻く現状と課題

第1節 社会潮流と環境問題

第2節 宇都宮市の状況と課題

第3節 課題のまとめ

## 第1節 社会潮流と環境問題

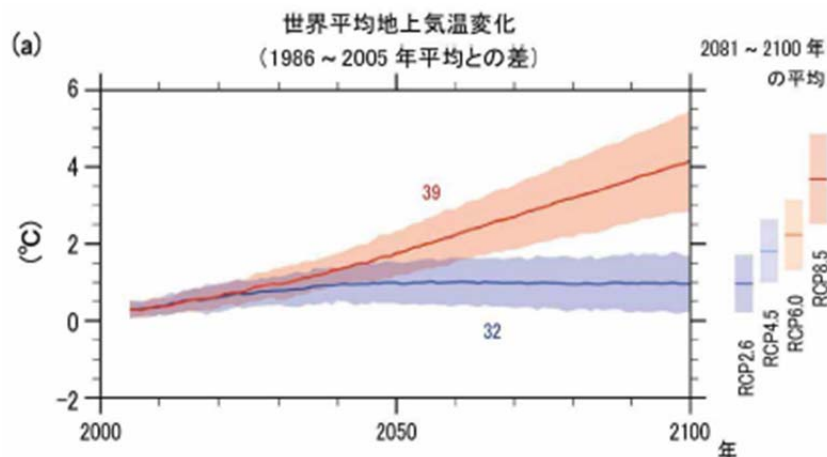
### ■気候変動の深刻化

近年、環境問題は、国際化しており、なかでも早急な対応が求められているものが温室効果ガスの影響に伴う気候変動への対応です。

平成26年(2014年)11月に気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が発表した第5次評価報告書統合報告書では、このまま温室効果ガスを排出し続けると、気候変動の影響がますます深刻化することが指摘されています。

気候変動による影響は日本国内でも予想されており、従来から実施してきた気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」だけでなく、すでに起こりつつある、あるいは起こりうる気候変動の影響に対して、自然や社会のあり方を調整する「適応策」の必要性が高まっています。

### ●世界平均地上気温変化



出典：「気候変動2014 統合報告書 政策決定者向け要約」（文部科学省，経済産業省，気象庁，環境省）

「IPCC 第5次統合報告書」によると、21世紀末の地上気温は、0.3～4.8°Cの上昇となる可能性が高いことが示されています。（上図）

また、気候変動の影響によるリスクを低減する「適応」については、現在及び将来における人々の福祉、資産の安全保障、生態系の財・機能・サービスの維持に貢献するものであると重要性が示されています。なお、現行を上回る追加的な緩和努力がなければ、たとえ適応があったとしても、21世紀末までの温暖化が、深刻で広範にわたる不可逆的な影響を世界全体にもたらすリスクは、非常に高い水準に達するとも示されています。

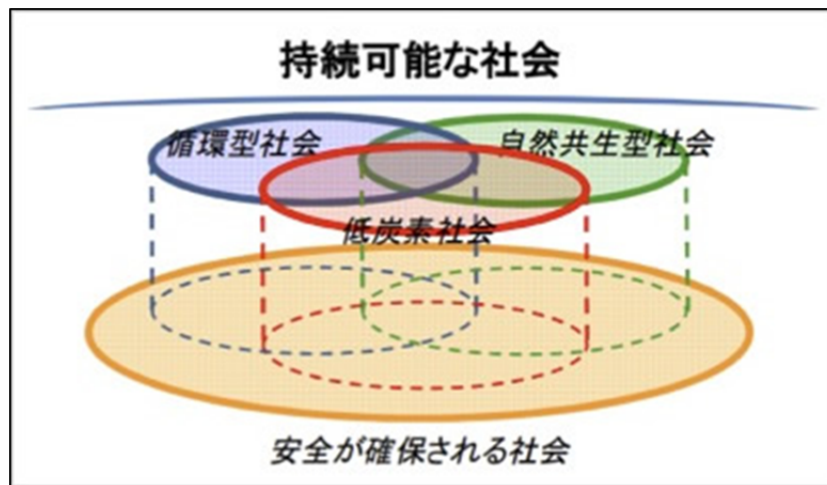
### ■安心・安全に関する意識の変化

平成23年(2011年)3月に発生した東日本大震災では、多くの地域に甚大な被害をもたらしました。特に、大規模集中型の電力システムが抱える災害に対する「脆さ・影響の受けやすさ」が市民生活に大きな打撃を与えたことは、記憶に新しいところです。

また、近年では、局地的な大雨等の災害も頻繁に発生しており、市民生活に大きな影響をあたえています。

こうした状況から、我が国の第4次環境基本計画(平成24年4月閣議決定)では、「目指すべき持続可能な社会の姿」の構成要素としてこれまでの低炭素・循環・自然共生の各政策分野の統合的達成に加え、この前提となる基盤として「安全」の確保が加えられるなど、環境行政においても、安全・安心への対応が新たな課題となっています。

### ●第4次環境基本計画における目指すべき持続可能な社会の姿



出典：「第4次環境基本計画」(環境省)

国の「第4次環境基本計画」では、上述の持続可能な社会の姿を目指すこととされ、それを実現するために重視すべき環境政策の方向として、環境・経済・社会、環境政策分野間の連携などを含む以下の4つの方向が示されました。

#### ■持続可能な社会を実現する上で重視すべき方向

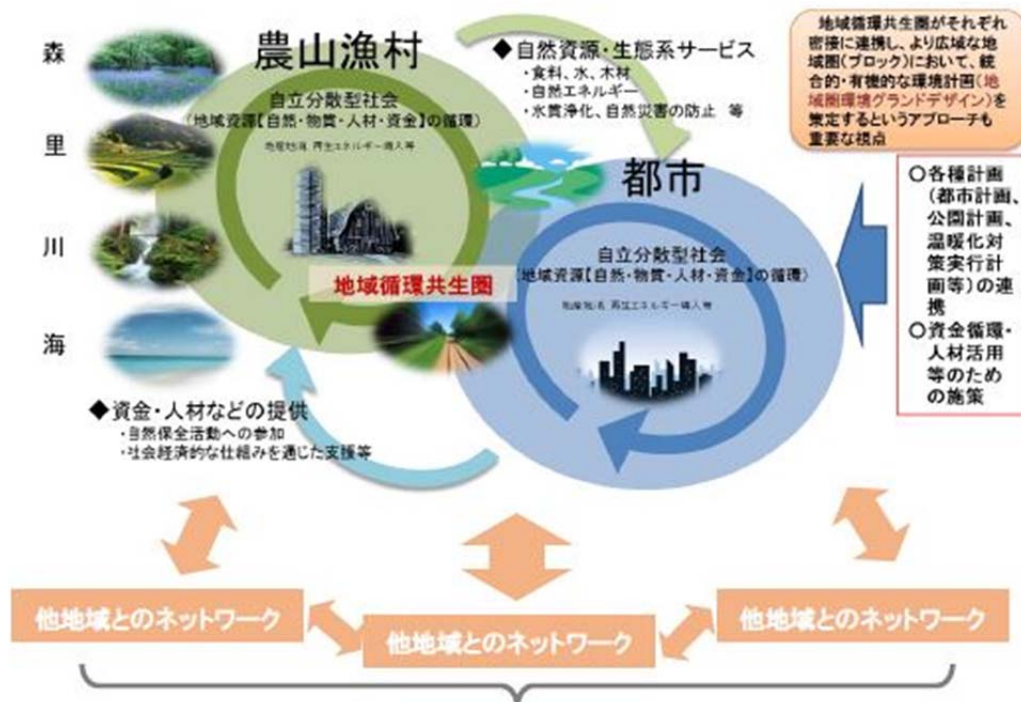
- ①政策領域の統合による持続可能な社会の構築(環境・経済・社会、環境政策分野間の連携)
- ②国際情勢に的確に対応した戦略をもった取組の強化(国益と地球益の双方の視点)
- ③持続可能な社会の基盤となる国土・自然の維持・形成
- ④地域をはじめ様々な場における多様な主体による行動と参画・協働の推進

### ■まちづくりとの連携

我が国の社会の状況は、世界に先行して本格的な人口減少や超高齢化などの社会問題に直面しており、これまでの人口増を前提とした都市空間の利用方法を改め、都市機能を拠点へ集約するコンパクト化や、エネルギー効率の良い低炭素型・循環型の都市づくりが求められています。

また、食料やエネルギーなどをはじめとする地域資源をできるだけ地産地消し、地域の中で循環して持続的に活用していく自立・分散型の地域社会の構築など、環境技術を活かした持続的な産業の創出なども求められており、社会・経済分野と連携した環境施策の展開が期待されています。

#### ●地域循環圏の概念イメージ



出典：「意見具申（H26年7月）」（中央環境議会）

地域循環共生圏は、都市と農山漁村の各地域において、地域ごとに異なる再生可能な資源（自然、物資、人材、資金等）が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、都市と農山漁村の特性に応じて適切に地域資源を補完し合う仕組みです。（上図）

### ■市民参加・協働の重要性

市民を取り巻く社会状況が大きく変化し地域の課題や市民ニーズも多様化・複雑化している中、これまでのような行政主導のやり方では対応しきれなくなってきています。

こうしたことから、市民と事業者、行政がともに地域のまちづくりを考え、地域が主体的に課題の解決に向け行動していくことが求められており、さらには、活動の中心を担う人材の育成が喫緊の課題となっています。

### ●エコまつりの様子



### ●チャレンジもったいないの様子



出典：宇都宮市環境学習センターHP

宇都宮市環境学習センターでは、環境への負荷の少ない循環型社会を実現するため、地域から地球規模までの環境問題について、正しい理解を深め、実践するための環境学習拠点です。

「見る・知る・行動する」を運営のコンセプトに、大人から子どもまで多くの方々が参加できるよう、講座・見学・イベント・再生品提供など多くの機会を提供します。